

しまなみロード

8月19日(日) ~ 8月22日(水)

IN しまなみ海道(大浜崎キャンプ場、みやくぼ石文化交流館、今治市)

	午前	午後	夜
1日目	尾道に向けて出発	向島~因島へ出発 キャンプ場到着	振り返り
2日目	しまなみサイクリング(生口島、大三島、伯方島、大島)		振り返り
3日目	今治市へ出発	今治市内散策	フェリー乗船、振り返り
4日目	関西に到着・解散		

一日目： 各集合場所から尾道に集まり、ここからしまなみ海道のスタート地点である、尾道まで電車の旅です。この間にグループの友達としっかり交流をして、自転車の本番に備えました。尾道に到着すると昼食を済ませ、早速自転車を借りに行きました。自分に見合った自転車を借り、サドル調整やメンテナンスをしっかりと行いました。出発前に自転車を思い通りに運転できるか確認するために試験走行を行いました。隊列はどうすればいいのか、スピードはどのぐらいか、掛け声はしっかり出ているかなど、グループで話し合いながら決めました。試験走行に合格すると、ついにスタートです。タイミングはほぼ全グループが揃ったので、一斉にスタートする事が出来ました。走り出すと練習と違い、早速様々なトラブルが起きました。いきなりパンクしたり、注意不足で電柱にぶつかったり、水筒のお茶が漏れていたりなどがありました。それでも一生懸命に進み、予定よりも早くゴールに到着することが出来ました。到着すると荷物をキャンプ場に運び、シャワーを浴びさっぱりしました。夕食まで時間があつたので、振り返りも行いました。振り返りの方法は『過去・未来日記』です。今日一日の振り返りを行った後、それを基に翌日グループの予想図を描きました。その内容を目標に頑張ってください。明日は沢山走ります。早く休んで、明日に備えましょう。

二日目： 朝から元気な声が聞こえてきました。朝食前に荷物の片付けや寝袋を干しました。朝食を済ませ、しっかりと体力を付けてキャンプ場を出発しました。今日は長い距離を走るの、初めから隊列やスピードを話し合いながら、進みました。進むにつれ自分達のペースを掴み、速さは徐々に増していきました。「生口島」では、息抜きとして海水浴を楽しみました。午前中は太陽が隠れており、少し肌寒かったです。午後からは太陽も出て暑くなってきたので、とても気持ち良さそうでした。午後からはどのグループも暑さに負けず、必死に漕ぎ続けました。坂道に心が折れそうになったり、パンクして思い通りにいけなく苛立ったり、よそ見してこけたりしましたが、それでも走り続け、ゴールの【みやくぼ石文化交流館】に到着しました。この日の振り返りは昨日よりもしっかりと話し合いました。夕食後も部屋に戻り、昨日描いた絵日記と今日一日の頑張りを比べ、そこからグループが持っているもの、足りないもの、必要としているものを考え、新たな絵日記を作成しました。



三日目： 起床時間まで施設内は静けさに包まれていました。起床時間になっても、元気な声は少なく、眠そうな雰囲気は漂っていました。部屋の清掃と荷造りを終えると朝食です。この頃から徐々に元気な表情が伺えました。今日の道のりはこれまでに比べ、大きな難関はなく、景色を楽しみながら進みました。特に一番長い橋である『来島海峡大橋』には一同大興奮でした。そして、四国に上陸し、あっという間に今治市内に入りました。ゴールの今治城への案内板が見え、走行に力が入り、ついに長い旅の終着地である『今治城』にたどり着くことが出来ました。この時のみんなの表情は笑顔よりも安堵感に包まれていました。余った時間は今治市観光です。帰りを待っている方々へ、頑張った自分へのご褒美としてお土産を買いに市内を散策しました。店内でお金を握りしめ、必死に選ばれている姿がとても微笑ましい様子でした。夕食は自分達で考え、飲食店やフードコートで食べました。余ったお小遣いを計算し、アイスやジュースを購入される姿も伺えました。三日間お世話になった自転車にお別れをし、一同フェリー乗り場へ向かいました。港まではバス移動でしたが、さすがに疲れていたのでしょう、半数以上が眠られていました。港に到着した時も眠そうな様子でしたが、ジャンボフェリーを見て興奮され、目も覚めたようでした。船内もホテルのような広さで、驚きの連続でした。部屋に入るといつもの振り返りと入浴を行いました。これまでの疲れもありますが、眠気と戦いながらも明日に向けて振り返りを行っていました。



四日目： 朝起きると大阪に帰っていました。ぐっすり休まれたので、朝からとても元気です。荷物の支度を済ませ、お楽しみの船内バイキングです。これを楽しみに参加された方もおられたほど、メンバー一同和気あいあい朝食を食べて済ませました。下船し、近くの公園で最後の振り返りを行いました。これまで何度も振り返りを行ってきたので、周りの騒音が気にならないほど集中されていました。振り返り後は、解散地の尼崎まで公共機関を乗り継いで帰ります。最後の最後まで気を抜かず、皆無事に帰ってくることが出来ました。今回の頑張りから自信を持っていただき、これからの挑戦に対して糧にしていきたいです。本当にお疲れ様でした。そして、おめでとう！！



<キャンプ総括>

しまなみ海道は観光として成り立っており、約80kmと頑張ればたどり着く事が出来る距離です。このキャンプの一番課題となる事は【学年層の広さ】です。同い年や近い年齢で走るとペースは合わせやすく、会話も自然と生まれます。学年が離れるとお互いが負担になり、それをどう原動力に変えていくかが大切になってきます。そこで大事なのが『振り返り』です。しまなみロードでは四回行いました。初日は出来事を単調に書き、翌日の目標も薄く、曖昧でした。二日目になると振り返りの内容に各々のメンバーの色が付きます。そうして最終日に向けて振り返りを通して成長します。日中の出来事はあくまできっかけや糧であり、それをメンバーの成長へと昇華するのが振り返りです。振り返りをもっと深掘りし、その大切さをメンバーに伝えていきます。

(竹中 哲郎)